代表取締役を務めさせて

サイドユー株式会社の



睦と申します。 部二〇〇六年卒の藤野将 皆様 大のある清瀬の地でビ はじめまして。 現在、日 護事業所です。 の主の事業は障害者自 将睦

は学生時

代

遣を展開しています。 時間三六五日の介助 立支援法に基づく居宅介 私が起業の地として清 市と武蔵野市で二十四 者

つか理由があります。 瀬を選んだのには、いく

会社の概要

いております。

現在は清 史的にも

社大で培ったもの

を学び、 学しました。学部時代に 力について学んできまし 事業として実践するため は福祉に対する気持ちを マネジメント研究科に進 大の専門職大学院の福祉 大切な人間観や福祉の心 私は学部卒業後、 福祉を実践する者に 専門職大学院で マネジメント 日社

をつなげることを目的と 理由の一つとしてあげら あるということが大きな この清瀬という地が現在 とができました。また、 多くの友人と知り合うこ の日本の福祉にとって歴 今の事業を支えて下さる 化事業に取り組んでいま しながら、商店街の活性 した。この活動によって 価値のある地で 学生と地域 けでは不十分です。 要です。しかし、働く人 なっています。 今の自分を支える基盤と 院で実践的に学べたのは ネジメントを専門職大学 業を経営するにはそれだ の生活を守りながら、 ●地域のソーシャル 人間観や情熱はとても重 組織や経営に関するマ 福祉の仕事には、

カーとして起業する ワー

とだけが事業ではなく 作ること」です。 はありません。 業務だけを考える企業で あくまで介助者派遣は地 ために必要なサービスを 企業理念は、 いますが、介助者の派遣 主の事業として展開して がい者の介助をするこ 私たちは介助者派遣を 地域で、 暮らし続ける 「住み慣れ 私たちの つまり

に近い場所で取り組んで

いこうと考えます。

軽

力で解決できるような い性質のものではない

私たちの個人

深い はないでしょうか? カーが目指すべきもので れからのソーシャルワー 践するという姿勢は、こ その解決方法を提案、 題を身近な場所で発見し

がソーシャルワーカーで 対して最も人々(市民) 私たちはこれらの課題に らす方が大勢おられます 生活課題を抱えながら暮 障がい・疾病・貧困・一 たちの身近な地域には 人親・外国籍など様々な あると考えています。 私

決の一つと考えています。域で暮らす方々の課題解 私たちは職員一人 |域や個人が抱える課 一人 実 わ

ます。 もソーシャルワークを仕 事として実践していきた な仲間と共に、これから 験、そして出会えた素敵 のではないでしょうか 利という狭い価値 められるのは営利・非 が、これからの社会で求 ていると思われがちです いと思います 環境で得られた知識や経 ーは公的な機関で活動し れない実践的ソーシャ ワーカーが求められる 日社大という恵まれた ソーシャルワーカ 記観に 捉 営



発行所 ₹204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30 日本社会事業大学 会 同 窓 電 話 042-496-3053 振替口座 00100-9-42448 ホームページ・アドレス http://www.harajukukai.jp/

卒業後もずっと社大の一員として 日本社会事業大学では、卒業生の方々との 充実したネットワークを築いています。本学同 窓会は、戦前の社会事業研究生、日本社会 事業学校研究科·専修科·専門学校、短期 大学、学部の卒業生、そして大学院の修了 生の全員で組織されており、同窓会や大学の 歩み、会員の活動などの情報を発信してます。



http://www.harajukukai.jp

して、

つなげていく 「ネ

トワーク力」だと考え

者」として巻き込み、

そ

課題解決に必要な関与



事にするのは、先にあげ

市民との協力関係を大

むのではなく、 祉に携わる者が単独で めに求められる力は、 会福祉を創造していくた からです。これからの 市 民 福

た私が、

原宿と清瀬をつ

(員として教育に携わっ

年から三六年間母校の

ŋ

集するかが重要な課題で その力を同窓会活動に結 アイデンティティを高め

1代の卒業生の社大への

ためには、

如何に清

が開店休業状態だっ

七期の卒業生で、一九七

そのためには学部

「第7代会長に就任して_

事会におきまして、私が きました。この度、 るよう仰せつかりました。 第七代目の会長に就任す 先生、五味百合子先生、永 会長として、 は葛西嘉資元学長を初代 日本社会事業大学同窓会 幹夫先生、 二五日に開催された幹 石橋俊一先生と続いて 上田忠義先 木村忠二郎 過日六

かつてのように、

社会

理念の達成に協力してい を活性化し、 た理由、背景には、既に いる状況があり、 パスで学び、 の半数以上が清瀬キャ 本社会事業大学の卒業 私が会長を仰せつかっ 母校社大の 卒業して 同窓会

> 役割を担うべきとの判断 が働いたものと私は理解 とから、 しています なげられる状況にあるこ 会長としてその

せん。 誰が任ぞ"の思いの具現 下して来ています。 の中核としての役割を母 化として、 行 建 年制福祉系大学は約 ならいざ知らず、今や四 福祉系大学が少ない時代 は容易なことではありま 校及び卒業生が担うこと 祉教育の、 に謳われた"社会の福祉 共生」)を踏まえ、校歌 ような中、改めて社大の 校社大の地位と役割は低 ○校もあり、相対的に母 学の精神 「忘我友愛」 しかしながら、 社会福祉実践 全国の社会福 (「窮理窮 「平和 その 五.

同窓会はこのミッショ それをやり遂げるこ とが母校の使命であ あると考えています 卒業生の役割で

らないと思います ンを大切にしなければな

催を、 思っています。今後、 体等と共催できればと ワーカーやケアワーカー で働いているソーシャ 中心になって、 デンティティを高めると 道府県支部及び韓国支部 をお願いし、会長就任の ながら尽力いたしますの 化と発展のために、 ます。 抱負を現時点で思ってい 窓会三役や各同窓会支部 会やワークショップの開 ともに、各同窓会支部が せて頂きますが、 の資質向上に向けた講演 何卒ご支援、ご協力 事務局長とも相談さ 社大同窓会の活性 当該地域の職能団 同窓生のアイ その地域 、そんな 微力 同

大橋謙策 会長 (学部7期生)

三五年間のご協力に心から感謝 ~原宿世代から清瀬世代への加速を期待~

今年度の幹事会(本部

で

挨拶とさせて頂きます。 会長として、 全国各都 期 だ」との想いから関東圏 学長を勇退されることに 初 役員の執行体制をより強 組んで参りました "原 内の同窓生に呼びかけら 松源助先生(研究科四 窓会と関わったのは、小 なったものです。私が同 謙策さんが定年を契機に には学部卒(七期生)で 化することにし、新会長 らに具体化するため本部 世代から清瀬世代へ。をさ これまで課題として取り 役員・各支部長で構成) た同窓会を「再建すべき 承認され実現の運びに なり良い機会と考えご本 人のご了解を得て提案し

の学長になられた大橋

究科六期)と不肖私が学 ○年四月にスタート致し 長に潮谷総 部 会長に推され、 一期 五味百合子先生を会 生であることから 一郎先輩(研

昭和五

味先生の場合は、

遺産の

部をご寄付いただいた

改装を期に「福祉サロ ました。これまで永田 はじめとした第一世代の の中で、鷲谷善教先生を として文京キャンパスの の協力など母校へ折に触 木田賞や母校六〇周年へ が当初の全国的な活動で 基金募集に取り組んだの 期)を委員長にその建設 板山賢治先輩(研究科四 窓会館建設委員会を設け だきました。この間 田忠義先輩(本科二期 夫先輩 た。これらの歳月の流れ ン」として実現致しまし た同窓会館に見合うもの 最近では永年課題であっ れ支援して参りました。 した。その後、 に会長としてご苦労いた (研究科 学内学会 期 · 上 同 幹

りしまして会長退任のご いただくよう心からお祈 られた皆様に哀悼の意を 後に去る三月十一日の東 協力しますのでよろしく 長共々「顧問」としてご 役員として在任三五年間 職員各位のご協力があっ 挨拶とさせて戴きます。 に復興へ向けて頑張って 生も含め被災された皆様 捧げますと共に本学在校 日本大震災により亡くな お願い致します。 は神田均 お礼申し上げます。 た同窓生各位にも心から にわたりご協力いただい し上げます。さらに本部 てのことで心から感謝申 続できたのも、 したが、同窓会活動が継 ております。申し遅れま して運用させていただい ことから「五味基金」と 伊藤博胤副会 歴代の教 なお最 今後



めてここでご冥福をお祈 でご逝去されました。

したいと思います。五

恩師のみなさんが相次い

石橋俊 - 前会長 (学部1期生)

委員会において議論して

400

350

300

250

200

150

100

50

1952

1955 1958 1961 1964 1961 1970 1973

竹田 同窓会活動」

の充実に向けて

●総務委

古屋

●同窓会副会長総務委員長 ●川崎市総務局行政財政改革室担当係長 幹雄さん (学部四〇期・院前期十二期生



同窓会の現況について

同窓会は、

(一) 会員

親

睦交流

0)

促進

母校発展の後援

ています。 学校の創立から六五年が 促進を目的として創設さ するために、どのような 支部で展開できるように とって魅力ある活動が各 営の効率化が課題となっ 活性化と首都圏支部の運 加によって、地方支部の 東出身の会員の大幅な増 至りました。最近は、関 万四千人余を数えるに (三) 会員の研究交流の 組が考えられるか総務 過する中で、会員数は 前身の日本社会事業 会員の皆様に

二〇〇九年度は十二%と 援の充実に向けて、会費 なっています。今後の同 年々低下してきており 設けるなどして、さらに 部から意見を伺う機会を 納入率の向上に御協力を 窓会活動や在校生への支 いますが、会費納入率が 主な財源として運営して ら納入いただいた会費を 検討を進めていきます。 いますが、今年度は各支 なお、同窓会は皆様か

終身会費制の導入について

お願いします。

費制 要望もいただいていたこ を来年度から導入するこ とから、 会員を対象とした終身会 るようにしてほしいとの いますが、一括納入でき の会費納入をお願いして 会員の皆様には毎年度 (終身会費五万円 満六〇歳以上の

未納者数

納入数

ととしました。ただし、 討していきます。

響や全体収支の推移を見 極めつつ、今後さらに検 今回の制度導入による影 能です。対象年齢や会費 終身会費による納入は選 の金額等につきましては、 入していただくことも可 まで通り年会費を毎年納 択制としますので、これ

代だ。そして彼らが今の 専門学校での演習時のこ なって働いているのだ。 きている。彼らは清瀬世 ない若い同窓生が増えて まだまだ自分は若いと思 が社大の後輩だったのだ。 とである。受講生の一人 っていたが「大先輩か」。 祉の最前線で中心に 原宿時代の社大を知ら

思った。 これからは若い清瀬世代 バトンタッチしていかな の同窓生に様々なことを くてはと講義の帰り道に

すね!」と。先日のある

「ええ~っ!大先輩で

さて、

大震災に 「こころのケア 新潟中越地震と東日本

1991 1994 1997 2000 2003

2006

1976 1979 1982 1985 1988

> り三十年以上がたった。 数派であったMSWにな 動にあなた達の新しい感 体験をさせて頂いた。 もMSWとしても貴重な そして社大卒業生として いうことなので少し。 性を注入して頂きたい。 まだ福祉の世界では少 後輩たちよ。同窓会活 自分の近況もと

取って頂ければ幸いだ 是非、



克己さん(学部十六期生) 日本大学医学部附属板橋病院

●精神保健福祉士

められてきたのであろう チームの一員として現地 には多くのソーシャルワ に派遣されたことだ。 チーム」として医療支援 -カーの姿が見られた。 最後に趣味の話。 今回の医療支援チーム ソーシャルワークが認

U S I C U. 出した。 て二冊目のアメリカン フォークのガイド本を (シンコーミュ 昨年に趣味が高じ F O L K 書店で手に S. 1 Α ジ

たいと思い、

東日本大震災

現地災害ボランティアを体験して 援助学科3年 野澤千明





う気持ちが大きくなりま 行動を起こしたい」と言 二日、三日と経ち、 像を絶する映像の数々に ました。そして、直後か はこれまで体験したこと でした。三月十一日、私 からボランティアバスの になるにつれて、 に被害の大きさが明らか らテレビで報道される想 した。六月に入り、学校 言葉を失うばかりでした。 ない大きな揺れを感じ 日本大震災は私に 衝撃的な出来事 「何か 徐々 出

ました。現地で感じたこ そして、それは私にとっ て大きすぎる経験になり

派遣が決まりました。現 に行くことを決めました。 を自分の目で見て知り 迷わず現地 ら復興に向けて長い道の います。 きっとあるのだと思って ことがあるのかと無力感 回参加しましたが、行け されました。これまで2 自分がいたことに気づか とは様々ですが、何より れでも行くことに意味は を感じます。しかし、 ば行くほど新しい状況に でした。頭では分かって 実感が湧いたと言うこと に行って初めて私の中で も衝撃的だったのは現地 いても受け入れていない 会い、私に何か出来る 被災地はこれか

> 中で私に出来ることはと 忘れず動き続けていきた ないけれど、いつまでも りを歩み始めます。 ても小さいことかもしれ その

を活かしつつ 同窓会員のネットワーク

被害をもたらしました。 なっても浜通りについて 事故による緊急避難が行 壊滅状態、その上に原発 が不通。ライフラインは 停電と断水、そして電話 内の浜通り地方に甚大な 震は、相馬市をはじめ県 はできませんでした。そ 地震発生後一週間に 去る三月十一日の大地 会員の安否の確認

> 事が確認できたことは喜 之氏(学部二〇期)は 追われて現在も小野志郎 地震・津波と原発事故に びに堪えません。しかし 住み慣れた土地を離れ 氏 (本科四期) と吉田政 た方を含めて全会員の無 危機一髪で避難

原発事故解決の見通しが もたちの支援に当たって 立ちたいと思います。 建と問題解決のために役 員のネットワークを活か カーとして避難した子ど スクールソーシャルワー 組んでいます。また、事 支援事業を再開し避難し 不透明な現状下、同窓会 います。いずれにせよ 務局担当の鹿島丈夫氏は た方々の生活支援に取り 先の二本松市で居宅介護 んな中で、吉田氏は避難 しつつ各地域の生活の再 ます。

福島県支部長 神戸信行

全員の無事が確認

その結果、 況確認をいたしました。 地域の同窓生を中心に状 名の支部会員のうち沿岸 岩手県支部では、六三 幸いにも岩手

> 確認できたことをご報告 害はなく、 県支部同窓生に大きな被 全員の無事が

避難生活にあります。そ 長野、三重、 らの支援物資の提供の他 援とご協力をいただいて させていただきます 切れ目ない人的支援をい 富山、石川、名古屋から 川、山梨、 協議会に対して北海道 かった沿岸部には全国か おり、特に被害の大き からこれまでの間、 ありがたさを痛感してい ためて、仲間の大切さ ただいております。あら 七カ所の市町村社会福祉 各地からたくさんのご支 また、岩手県には三月 秋田、 新潟、福井 岐阜、神奈 静岡、愛知

た。

改修するかどうか迷って を超えられているので

しかし御夫婦で九十

いるという方が居りまし

岩手県支部長 罹災状況 宮城県内社大同窓生 高橋勝彦

をされた方が一名、 せんでした。避難所生活 部から県内同窓生リスト かりうる範囲では有りま 出来る限りの確認をしま ので、電話と往復葉書で、 した。死者、怪我人は分 五三名分が送られてきた 今回、緊急に同窓会本 マン

社大本部を始め多くの関

ることを併せて報告し、 のために、尽力されてい ティアとして、今も復興

ション入口で避難所的 危ないことは危ない)が 方(まだ何とか住めるが 活を少し送られた方が一 家が全壊の様な壊れ

生が仕事として、ボラン と大変な体験をされた方 が、もう一人の人は残念 の場に居合わせた同窓生 を逃れたとのことでした。 に住まわれていたので難 れましたが、比較的高台 多賀城、石巻の方も居ら が居ました。多くの同窓 で犠牲となってしまった、 ながら助け出せず目の前 が救援の手助けを頼まれ 震災時に倒壊が有り、 人を何とか助け出した 内陸部の大スーパーで 津波が関係した六 そ

大坂 カ

ら感謝申し上げます。

を賜りましたこと、 係者から、多大な御支援

社大福祉ネットワークと

域における様々な関係機 らに、大学関係の方や地 構築を行っています。 と」を目的とし、 会のあらゆる場面におい わる会員による自主的な 社会福祉の発展を目指し て福祉の向上を目指すこ H いきます。 連携やネットワークの 活動を通して、 部生が在籍する「学生 化させるとともに、 や人々と交流を行い 究会です。 日本社会事業大学に関 からなり、 本社会事業大学を活 所属する「卒業生 大学院生・卒業 それぞれ 当会は 会員間 現役の さ

でした。日本社会事業大 はほとんどありません 的に研究をしている団 当会発足時、 学生が自

> ます。 期的に情報共有をして 当時の会員は学生のみで で結成したのが当会です。 学と言う、 会員となり、学生部と定 もったいないと感じ有志 したが、 学び 舎 今は、卒業生も K 祉の いるの 最 13

す。 携を図るようにしていま ŋ 職場での体験を共有した 卒業生がサポートしてい を企画し、 るほか、 年に 学部生と卒業生が連 卒業生部が持つ 度、 学生の研究を 合同で合宿

新関正浩

学部二〇〇三年度卒 真左から三人目 重な場所 先輩と直接話が出来る貴

ラスして、 先生方から学ぶことにプ ワークに入ってから、 大学で、授業やゼミで 社大福祉ネッ

> だける機会が増え、 輩方と、課題を話し合っ 現場で活躍されている先 な体験になっています。 相談に乗っていた 貴重

小玉由香

となりました。

日本社会

式典を挙行すること

(写真左から二人目)

ご講演いただく等、 事業大学平野准教授にも

詳

は、下表のようになって

是非ご参加

で十年になります。 今年で十周年 当会が発足して、 数名 今年

ださい。

で始 なりました。 会員数が百名近くにまで この度、 めた活動も、 十周年を記念 今では

社大福祉ネットワーク中心メンバー 左から野崎 (学部3年)、小玉 (学部3年)、新関 (学部2003年度卒)、川上 (学部2005年度卒) 松倉 (学部2009年度卒)、阿部 (学部2009年度卒)、豊子 (学部2010年度卒)

「社大福祉ネットワーク設立 10 周年記念式典」のご案内

式典開催日 2011年10月2日(日) 会場 日本社会事業大学 B 棟内講義室

13:35

式典スケジュール 13:00 受付

> 13:20 開会および挨拶

> > (日本社会事業大学准教授)

基調講演 平野 方紹氏

14:30 パネルディスカッション

16:00 終了

16:30 ~ 18:00 懇親会

式典にご出席頂けます際は、当日会場にお越しください。 懇親会にご出席頂けます際は準備の都合上、以下へのご連絡を お願いいたします。(懇親会費用1,000円を当日ご負担願います) 松本 恵三 wine_drs@yahoo.co.jp

社大福祉ネットワーク会員数 (2011年3月現在)

学生部 50名 43名 卒業生部 1年 13名 2001 年度卒 3名 2002 年度卒 2年 11名 5名 14名 2003 年度卒 3年 4名 4年 12名 2004年度卒 1名 11名 2005 年度卒 2006年度卒 3名 2007年度卒 3名 2008年度卒 7名 2009 年度卒 6名

2011年度幹事会の主要事項 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

新会長に大橋謙策氏

終身会費制の新設と大震災被災状況

定例幹事会6月25日(土)もたれ、事業報告・決算・予 算他の通常議事のほか、役員改選、終身会費制の新設な どが審議された。

◆◆ 新会長に大橋謙策氏

役員改選は大橋謙策氏(学部7期・1967年卒)を選出、 清瀬に移って成人年を過ぎ、清瀬世代につないでいく活 動をすすめていく。

◆◆ 終身会費制の新設

会費について総務委員会で検討をつづけていたが、会員数や年会費納入率等を勘案し、納入時満60歳以上の会員にあっては、終身会費(5万円)と年会費(3千円)のいずれかを選択できることとなった。

◆◆ 大震災被災状況

関係支部(岩手・宮城・福島・茨城)に調査をお願いし、原発による避難2名のほか、死亡・行方不明の方はいない。 (4ページに関連記事) 見舞金の支給は正副会長会に一任する。なお、青森・山形・千葉支部の被災者はいない。

◆◆ 拡大総務委員の開催

同窓会活動の課題について協議する拡大総務委員会を

二つもつこととなった。所属会員数が多い首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)支部と「地方支部」(地域ごと一支部参加いただく)数支部のそれぞれ支部長と総務委員で構成。

- ◆このほか、「基金会計」から、文京キャンパスの同窓 会・福祉サロン「年間賃貸料」200万円(毎年度2016年 度まで)を母校に支出。
- ◆「五味基金」から支部活動支援として、福島・群馬・ 長崎・熊本の各支部と総会開催案内(清瀬世代卒業生約 3千名にハガキを送付)印刷・郵送費を支出。
- ◆文京キャンパス内の同窓会室に五味百合子先生の写真 (パネル)を配置、土田邦彦画伯(研12期・1960年卒) の絵画10点余を展示。

お近くに来られましたら、お立ち寄り下さい

2010年度 日本社会事業大学同窓会決算 / 2011年度 日本社会事業大学同窓会予算

| 収入の部 (単位: F | | | | | | |
|---------------|------|-----------|-----------|--|--|--|
| | 科 目 | 2010年度決算額 | 2011年度予算額 | | | |
| 前年度繰越金 | | 738,203 | 1,540,788 | | | |
| | 会費収入 | 5,423,000 | 5,000,000 | | | |
| 入会金収入 利息収入 | | 840,000 | 846,000 | | | |
| | | 4,425 | 500 | | | |
| | 雑収入 | 2,035 | 1,000 | | | |
| | 合 計 | 7.007.663 | 7,388,288 | | | |

支出の部

| 科 目 | 2010年度決算額 | 2011年度予算額 |
|------------|-----------|-----------|
| 会議費 | 189,144 | 300,000 |
| 委員会活動費 | 96,000 | 190,000 |
| 人件費 | 540,695 | 600,000 |
| 支部強化費 | 1,040,330 | 1,500,000 |
| 研究推進事業費 | 125,700 | 150,000 |
| 機関紙等印刷費 | 1,083,478 | 1,100,000 |
| 支部出張費等 | 312,480 | 450,000 |
| 通信運搬費 | 1,337,796 | 1,600,000 |
| システム管理費 | 126,000 | 150,000 |
| ホームページ関係諸費 | 89,996 | 150,000 |
| 慶弔費 | 59,925 | 150,000 |
| 国際交流推進費 | 29,820 | 80,000 |
| 学内学会助成金 | 0 | 100,000 |
| 卒業記念品費 | 222,900 | 300,000 |
| 事務局活動費 | 212,611 | 300,000 |
| 予備費 | 0 | 268,288 |
| 合 計 | 5,466,875 | 7,388,288 |

【収支差引額】

7,007,663 — 5,466,875 = 1,540,788 (収入決算額) (支出決算額) (翌年度繰越額)

| 普通預金残高 | 1,055,669 | | |
|--------|-----------|--|--|
| 郵便振替残高 | 359,300 | | |
| 現金残高 | 125,819 | | |
| 合 計 | 1,540,788 | | |

◆ 2010年度同窓会基金会計現在高(同窓会館建設基金)

26,146,262円

◆ 特別積立現在高(会員名簿作成準備他)

506,335円

◆ 五味基金

27,335,054円

| 同窓会 | 役員 | | | | |
|-----|-------|-----------|------|--------|---------|
| 役員名 | 氏名 | 卒業期 | 役員名 | 氏名 | 卒業期 |
| 顧問 | 仲村 優一 | 研1 | 総務 | 森 雅巳 | 学24 |
| | 板山 賢治 | 研4 | | 中島修 | 院前6・学34 |
| | 上田 忠義 | 本2 | | 高倉 義憲 | 院前8・学22 |
| | 神田均 | 研7 | 広報 | 木村 尚文 | 学15 |
| | 石橋 俊一 | 学1 | | 井口 拓治 | 学25 |
| | 伊藤 博胤 | 本10 | | 熊谷 紀良 | 学34 |
| 会長 | 大橋 謙策 | 学7 | | 渡辺 一城 | 院前5・学30 |
| 副会長 | 松崎泰子 | 学4 | 研究調査 | 松崎 泰子 | 学4 |
| | 阿部 實 | 学13 | | 阿部 實 | 学13 |
| | 竹田 幹雄 | 院前12・学部40 | | 平野 方紹 | 学20 |
| 監事 | 谷 政子 | 学3 | | 高橋 流里子 | 学20 |
| | 杉浦 信剛 | 学5 | | 金子 恵美 | 院前1・学21 |
| 総務 | 竹田 幹雄 | 院前12・学部40 | | 木戸 宣子 | 院後7 |
| | 古屋 克己 | 学16 | 事務局 | 長阿部 實 | 学13 |

JCSW ネットワークを 広げよう

支部活動・会員の近況

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、 あなたの同窓会への参加をお待ちしています。



原爆ドーム前にて 総会後

北海道支部

会長 山﨑 忠顯(研究科38期)

日社大北海道支部 会員の近況報告

佐藤勝彦さん(学部6期、奥様玲子さんは学部7期)ご夫妻は、今冬、海外旅行に行かれ笑顔で帰国。しかし帰宅して顔面蒼白。「水落とし」を忘れていた為に、水道管が破裂し、大切な植木鉢もシバレてしまっていたとの由。(因みに修理費は地震保険で補償されたとの事で再笑)。また和泉森太さん(学部14期)は、函館に「単身赴任」され、NPO法人「ユニバーサルホーム函館を作る会」理事長として、道内に少ない視聴覚障害者向けの老人ホーム建設運動中。飯田準一さん(専修科28期)は福祉印刷工場に勤まれながら、道内の「一等三角点」踏破を着々と進行中。また、高田哲さん(学部15期、奥様和子さんは学部17期)はNPO法人「おたるAtoZ」理事長としてケアマネ事業所「塩梅屋」の運営を始められました。

日社大北海道支部 総会報告

北海道支部は1月の総会(札幌)と、8~10月のセミナー開催が主な事業です。

今年1月29日の総会は、支部長の山﨑忠顯さん(研38期)、美智子さん(院・H19卒)ご夫妻はじめ9名の参加でした。

10月15日(土)、16日(日)には天人峡温泉(旭川)「ホテル天人閣」にて夏季セミナーを開催予定です。 金子 記

訃報

永らく当支部長をされていた野村健さん(本科8期)が4月に 病気加療中の所、亡くなられました。北海道で地域福祉の 先陣を切り、文字通り粉骨砕身されました。合掌。

広島県支部

会長 樽本 叡(研究科9期)

日社大広島県支部 会員の近況報告

大崎(学部6期) 岡部(学部7期) のお二人から、数年働いて日社大に進学、その時、田中先輩(本科1期・故人) からの助言や援助、入学後は五味百合子先生から暖かい援助があったと回想。吉田(学部3期) は、初孫誕生の喜びを話し、杉ノ原(学部10期) は、広島平和公園の「原爆の子の像」除幕式に福山市の小学生代表で参加した思い出を語る。

藤本(学部14期)は広島国際学院大学准教授として社会福祉士を目指す学生に対する取組みを語る。

平岡(学部16期)は呉市図書館勤務、平岡(学部17期)は呉市内の児童デイサービス管理者として働く。初参加の佐々木(学部34期)はユニセフ活動に関っている。また図書館勤務の平岡より、元日社大研究員・野久尾尚志は、広島国際大学建築科教授として福祉建築など専門で活躍と紹介。

日社大広島県支部 総会報告

平成23年2月11日 広島原爆ドーム前の「旅館相生」において、総会・懇親会開催。総会後、日社大同窓会・伊藤副会長から日社大の現状報告があり、五味基金や他の援助を説明され地方から日社大への進学者が増える事を希望された。

樽本支部長(研究科9期)から広島県原爆被害者団体協議会が発行した「空白の十年・被爆者の苦闘」の手記・生活実態アンケートの統計の報告があった。【(注)この図書は日社大図書館に寄贈済みです。】参加者は10名と少人数であったが有意義に過ごした。 平岡 記

追伸: この度の震災で東北地方にいる同級生2人 (第2松風寮で共に 生活した仲間) に連絡して無事と聞き安心しました。



社大北海道支部夏季セミナー 右から3人目が高橋学長、6人目が佐藤久夫先生です。

ル

非 常 時 対応は日常の積 4

重 ね

ター立ち上げて初めて作っ

十人くらいいましたのでセン

嵐 祐子 (旧姓 小林·学部三六期)

られたそうですが? きた方の受け入れに関 Ò の 震災で避難されて ゎ

イアセンターを開設するこ ることもあり、避難所内に 協定を調布市と締結してい ボランティア活動に関する とになりました。 避難された方々の緊急受け 原子力発電所の事故から る東京都調布庁舎で、福島 入れを開始しました。私の 布市被災者支援ボランテ 議会は、災害時における 一務する調布市社会福祉 味の素スタジアム内にあ 東京都は三月十七日よ

ランティアコーディネート 験させていただきました。 の調整、交渉など二ヶ月にわ から、避難者の相談対応、ボ ティアセンターの立ち上げ たりさまざまな業務を経 元自治会や行政、企業と 私も担当者としてボラン

営についてお聞かせくださ ボランティアセンターの運

相談はまったくありません 最初は避難者の方からの

> い」「何か協力したい」とい でした。でも、「ボランティア ボランティアの仮登録サイ 形 正確な情報を出せるような 出てきたときにこちらから 持ちを受けとめて、必要が ンティアをやりたいという気 ネットサイトでまずはボラ いました。それならインター た。三月二十日のことでし トを開設していただきまし ナルに相談して、大急ぎで WEB制作のプロフェッショ こんなニーズがあるといった かくの想いをまったく無に する手段も時間もない。せつ 希望者に個別にアプローチ きてもこれらのボランティア えていくと、ニーズが見えて お申し出は毎日ひっきりな た個人や団体、企業からの したい」「物品を寄付した してしまうことになると思 しでした。このまま数が増 にできないかと考え

初は小さい子どもたちもご んどが福島県からです。当 わき、浪江、富岡など、ほと 約百九十人、七十世帯。い ていた避難者はピーク時で 味スタ避難所で生活され

> クゼーションルームを作りま マッサージやヨガを行うリラ ティアをお願いしました。子 でした。サイトに登録して おこなっていきました。 立てていき、状況やニーズに らの主要プログラムはセンタ 学習室を作りました。これ 配という声が出てきたので 新学期も近づいて勉強が心 どもたちのプログラムです 高校生まで、少し大きな子 した。その次は小学生から 次はお母さんたちのために ちが喜んでくださいました。 どもたち以上にお母さんた の先生と顧問をしている和 合わせて柔軟に組み換えを ー開設後|週間以内に組み たプログラムがキッズルーム 太鼓部の生徒さんにボラン くださっていた近くの高校

ださったボランティアは一日 百人くらい。そのほか洗濯 避難所内で活躍してく

出

来の悪い学生だったと

の力に支えられた二カ月で で取り組み、潜在的な地域 きますが多くの方々と全力 間でした。もちろん十分と ようであっという間の二カ月 ていただくなど新しい形の にサイトでのボランティア登 や送迎サービス、引っ越しの ティアさんや、お風呂の提供 て届けてくれる洗濯ボラン 物を預かって自宅で洗濯し なさんの困難はまだまだ続 はいえませんし避難者のみ 注目されました。長かった ボランティアマネジメントが る都内の避難所」と紹介し NHKでも「二千人が支え 録は二千八百人を超え をいただきました。最終的 方に生活全般に渡る支援 体や企業など本当に大勢の お手伝いなど個人の方、団

学生時代はどんな思い出 ありますか?

プロフィール あらし ゆうこ 1973年、三重県生まれ。日本社 会事業大学卒業後、社会福祉法人調布市社 会福祉協議会に入る。現在、総務課長補佐兼 市民活動支援センター副主幹

の危機管理」というテーマで

への第一歩だと考えています 心して暮らせるまちづくり 地域力であり、心豊かに安

きたいと思います。それが

ワークをたくさんつくってい

え合えるつながりやネット と出会い、互いに信頼し支

神淡路大震災と社会福祉

はじめたはいいけど ったく考えていなかっ 思います。将来どん 驚くくらい。これまで気付 沸くのかと自分でも 最初は寂しくて寂し 念願の一人暮らしを 記憶もありません たし熱心に勉強した か、何がしたいとかま な仕事につきたいと くて。こんな感情が

かなかった自分の弱さにハッ 毎日楽しかった。 壁を乗り越えるとその後は としました。ホームシックの

それから高澤先生の話が難 にちょっとがんばってあと半 災のボランティアとして神戸 年の春休みに阪神淡路大震 るようになりたかったから な。ゼミは高澤ゼミでした 年遊んで暮らすというよう 誇れるものはないのですが に行きました。卒論を「阪 えって興味を持ちました。三 すがあまりにも難しくてか てゼミの説明をされたので から。難解な用語を多様し 選択の動機はパソコンを使え なかったです。長期休暇の時 かく楽しくてバイトすらし 友達と一緒にいる時間がとに しくてよくわからなかった 「これをがんばった!」と

卒業式のときに高沢先生、当時の京極学長、 ゼミの仲間と(後列左から2人目)

す 今後の抱負をお願

思議な縁を感じます。 書いたのも今からすれ

ば不

ったことも非常にありがた 域の方が頼りにしてくださ 協定うんぬんではなく「こ 成であったと感じています とでも日頃からの地域のつ だと思っています。今回のこ んどん地域に出て多くの人 く思います。これからもど んな時こそ社協だろ」と地 これまでの積み重ねの集大 関係機関と協働できたのも ながりが大切なことを実感 しましたし、地域の人たち 社協の仕事はまちづくり